

総合的な学習

総合的な学習の中の環境学習として「水・川」を取り上げる学校が多い。環境学習で、生き物にとって不可欠な水問題は多様な学習材になる。そこに棲む生き物を調べたり、水質を調べたり、自分たちの身の回りと比べたりしながら水環境の在り方を学んでいく。環境学習の基本は「足元から地球規模へ」である。子どもたちの身の回りのことをまず学習したい。それも体験学習を重視して。



水生生物調査で白川の水質を調べる

生活科

河川敷は、四季折々多くの生き物を育む。川原の植物や昆虫など生き物観察の場に。



バッタやトンボを追いかけて

社会科

「まちのふしぎ発見」で白川マップを作ったり、用水路の学習の場として。

5年理科 単元「流れる水の働き」

5年理科「流れる水の働き」の単元の学習の場としての利用。蛇行する川の内側と外側を観察して水の流れをみたり、実際川に入って流れの速さや砂利等の運ばれ方を実験したり、わくわくランドの館内の流水模型や白川の立体模型で学習したり、洪水を防ぐさまざまな取組みの話を聞いたり。また、わくわくランド周辺には治水・利水工事について考える素材もある。学習導入として、また整理の段階に利用される学校が多い。

秋の白川学習の場



板の上に砂利や小石を乗せて「流水の3要素」の実験



図画工作科

川原の石の観察をした後、ストーンペインティング。



好きな石を選んでペイント

幼稚園 保育園から

館内の展示物や模型を見たり、川原で石遊びをしたりしながら水や川を身近に感じる。





中通古墳群のなかの円墳。前方後円墳の一基は河川改修の際、前方部の大部分が削られた。



手野の名水。岩の割れ目から湧水が溢れ出る。



国造神社境内。一角に鯉神社も。東側を宮川が流れる。

水基巡り

一の宮町の中には、水が湧き出ている所がたくさんあります。古くから生活用水や飲用水として利用されてきましたが、現在、町内十数箇所、それぞれに工夫を凝らし水のみ場が設置されています。今回は、昼食後それぞれに、小一時間、水基巡りをして豊かな湧き水と出会いその恩恵に触れ感激しました。



秋の一日阿蘇の地、一の宮町を訪れました。阿蘇谷の東に位置する一の宮は、大自然の中で阿蘇谷が形成されて以来、長い歴史を経ながら多くの文化を育んできました。

この地の自然や歴史を学びながら、その豊かさや水と関わる地域の生活・文化に触れた一日でした。今年は台風の被害が大きかったようですが、阿蘇神社の大銀杏はしっかりと秋を知らせてくれました。

寺子屋

秋の一の宮散策

期日 平成16年十一月八日 土曜日
参加者 三十一名

寺子屋

わくわく講座

テーマ 水域生態系を考える

～付着藻類を事例として～

十一月十日水曜日十九時から、わくわくランドで、座学を行いました。講師は熊本大学工学部 大本照憲教授。
今回は、筑後川水系の大山川の付着藻類についての話でした。
日田市上流の大山川ではダム直下流域の瀬は石礫河床ですが、流速の小さいところではアユやヨシノボリなどの餌となる付着藻類は枯死状態にあるといわれています。
枯死状態の付着藻類および微細土砂の剥離条件付着藻類の成長速度に与える流速の影響について調査した結果が報告されました。
今回の寺子屋は、ユネスコ市民大学との共催で行われました。

枯死状態の付着藻類および微細土砂の剥離条件付着藻類の成長速度に与える流速の影響について調査した結果が報告されました。



天神橋 (めがね橋)

一の宮町板梨地区に架かる石橋。町が設置している説明版に「天神の工事は、あしかけ3年を要し、約百個の石がみごとなアーチをえがいている。橋のたもとは 弘化四年丁未吉辰（1847）八代郡種山手永（現東陽村）棟梁「石工卯助」と刻まれている。
卯助の最大の事業は、錦川に架けられた下益城郡祇用町清水の壘台橋で、石工棟梁種山の卯助ら総勢72人で行なわれたとある。この壘台橋が完成の日彼はもう天神橋の着工に向けて出立していたという。
卯助は最後の一石を頂点にはめる時、その真下に意義を正して正座したといわれ、覚悟の程がしのばれる。一の宮町とある。

寺子屋

白川の生き物たち

期日 平成十六年九月十一日 九時～十二時
場所 白川子飼橋右岸周辺
参加者 三十八名

今回の寺子屋は、白川わくわくランド周辺で、河川敷や川の中の昆虫を中心に学習しました。参加者は、小学生とその保護者。講師は、財団法人宮嶋利治学術財団理事長で医学博士の山崎正城先生です。

「今日は昆虫の名前を覚える学習ではありません。それがどんな生き物か、よく観察してバズルを解くようにパターン化していくのです。そうすると、その生き物の生態がわかってくるのです。そのように、ものの「見方」を勉強しましょう。」

河川敷や熊本大学工学部裏の公園で見つけたバッタ類やトンボ類、チョウ類、水生昆虫類を観察しながら、豊富な知識と体験に基づいた先生の話を聴き、子供たちは目をくりくり、大人は「納得！」の表情でした。

「バッタは、昼型でしょうか、夜型でしょうか。」
「昼型です。」

「それはどうしてですか。バッタの目を見てください。」

この日は大変残暑が厳しく汗だくの野外活動でしたが、クイズ形式の先生の話に引き込まれ、あっといふ間の三時間で、自然界の生き物の見方としっかり観察することの大切さを教わった一日でした。



このトンボの目を見てもらんはなれていますか？
くつついていますか？



熊本大学工学部裏の公園でトンボやバッタをおいかけて。



観察器具で水生生物を観察しました。



増水後の水たまりにたくさんの水生昆虫がいました。



理科

観察器具紹介

四倍・六倍両面観察器

上からのぞくと倍率6倍。横穴からのぞくと倍率4倍で底面（腹部）の観察が出来ます。昆虫やメダカの卵の観察やスケッチなどにとっても便利です。白川わくわくランドでは水生昆虫の観察等にとっても便利しています。

川の豆知識.3

天井川

長年川の水によって運ばれてきた土砂は、川底にたまり川を浅くします。それで洪水防止のため堤防を高くします。その繰り返しでいつのまにか、周囲の土地より川の方が高くなります。このような川を天井川といいます。

白川でも、熊本市の市街地付近では天井川になっていて、51年前の通称6・26水害で大きな被害を受けました。



わくわくランドと子飼商店街 わくわく物産展も

わくわくランドは子飼橋のたもとにあり、隣接する子飼商店街とは、オープン以来たくさんの学習行事を共に協力しあっておこなってきました。そのもっとも大きな行事が秋に訪れる小学校の社会科見学旅行です。



目的は、それぞれの学校によって異なりますがここでは主に2,3年生の学習を紹介します。

来館した子どもたちは河原に行って川の様子や生物を観察したり、石投げなどして最後に1つだけ石を拾ってわくわくランドに帰ります。実際に今見てきた川のようにすや成り立ちについて学習した後、拾って来た石に思い々の絵を描きます。動物であったり、好きな食べ物であったり。子どもたちの石はそこで宝物に変身します。昼食の後、待ちに待った子飼商店街へ。班ごとに分かれ商店街の端から端へ。目ぼしい物を見つけてお店の人にインタビューしたり。商店街の方々には子どもたちが買い物しやすいように品物を小分けしてお店に並べておられます。目的を達成した子どもたちは大満足で大きな袋をかかえて商店街を後にします。

11月12,13日子飼商店街主催のわくわく物産展が催されました。各市町村からの名産品に交ってわくわくランドも多くの方に知っていただくよう出しました。

ストーンペインティングには子どもたちの列が出来るほどの大盛況でした。その他根子岳のCDや竹とんぼなど日頃からわくわくランドに協力にさせていただいてる方々の暖かい好意の品々を配布しました。



1月~5月 白川わくわくランド

寺子屋案内

主催
白川流域住民交誼センター
(白川わくわくランド)

1/22 (土) 10:00~12:00

白川河川敷で遊ぼう！
紙飛行機作り！

対象 小学生以上
定員20名
参加費100円

2/19 (土) 10:00~12:00

子飼周辺バード
ウォッチング！

対象 小学生以上
定員20名
参加費100円

3/11 (木) 19:00~20:30

講座

「白川沿いにくらし
たいにしえの人々」

～小碓橋ざわ遺跡、調査から
対象 高校生以上
定員30名
参加費100円

3/26 (土) 11:00~15:00

白川ハイキング&
ストーンペインティング

対象 小学生以上
定員20名
参加費100円

4/23 (土) 9:30~16:00

春の小島町散策

対象 高校生以上
定員30名
参加費1200円

5/14 (土) 10:00~15:00

市街地の
白川沿いを歩く！

対象 高校生以上
定員30名
参加費1200円